

いわて復興だより

がんばろう！岩手 つなごろう！岩手

三陸復興

第 123 号

平成 29 年 3 月 15 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思えます。

震災から 6 年が経ち、復興が少しずつ形になり、新しい街の姿も見え始めてきた今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

あの日から 6 年 東日本大震災津波 岩手県・釜石市合同追悼式

釜石市



飾られた祭壇



黙祷を捧げる参列者



式辞を述べる達増知事

東日本大震災津波から 6 年を迎えた平成 29 年 3 月 11 日（土）、岩手県と釜石市の合同追悼式が県立釜石高等学校第一体育館（同市甲子町）で開催され、ご遺族をはじめ関係者約 750 人が参列しました。

合同追悼式では、国立劇場（東京都千代田区）で開催された政府主催の追悼式中継映像が映し出され、地震発生時刻の午後 2 時 46 分に参列者全員で黙とうを捧げました。

達増知事は「犠牲になられた方々のふるさとへの想いを受け継いで、この東日本大震災津波の惨状やその経験の中で得られた教訓を改めて心に刻み、後世に伝えながら、復興を進めていかなければならない。今を生きる私たちは力を合わせ『いのちを守り、海と大地と共に生きるふるさと岩手・三陸の創造』を目指す。」と式辞を述べました。

また、野田釜石市長は「度重なる

津波や艦砲射撃の被害から、新たなまちづくりに立ち向かってきた先人たちの歴史を振り返り、次世代に誇れる町の実現に向けて取り組んで行く。あの悲劇を二度と繰り返さない、誰一人として犠牲にならぬよう、教訓を次世代に確実に伝えなければいけない。」と誓いました。

続いて、ご遺族を代表して、鶴住居地区防災センター（釜石市）で奥様を亡くされた三浦芳男さんが「東日本大震災による津波は、平穏な日々を送っていた私たちの生活を一瞬のうちに奪ってしまいました。あの津波により生活の場を失い、今なお



参列者による献花

不自由な生活を余儀なくされている被災者の現状に、自然の脅威を改めて強く感じざるをえません。最愛の家族を失った遺族の方々の深い悲しみに思いを馳せない日はございません。二度と同じような悲劇を絶対に繰り返すことのない防災対策を強く望んでいます。」と追悼の言葉を述べました。

このあと、釜石市合唱協会の皆さん約 30 人が「永遠の花」と「スタンドアローン」の 2 曲を献唱。

最後に、生田流正派箏成会が奏でる琴の音が響く中、参列者は献花台に白菊を手向け、犠牲になった方々への祈りを捧げました。

東日本大震災津波により、岩手県では、5,134 人（直接死 4,672 人・関連死 462 人）の尊い命が奪われ、今もなお、1,122 人の方々が行方不明になっています。（平成 29 年 2 月 28 日現在）

いわて復興応援団(員)大募集中!

知って、買って、食べて、行って応援!



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員（個人）と応援団（法人及び団体）の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

登録無料

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索

